

# 高度南洋真珠養殖技術の研究開発

— テーマ3-1 高度南洋真珠養殖技術の研究開発 —

研究代表者 愛媛大学 南予水産研究センター 教授 三浦 猛

## 研究概要

愛媛県の主要産業であるアコヤガイ真珠養殖業は、近年販売不振が続いているため、温暖化により生息域が北上している南洋真珠貝(クロチョウガイ、マベ)を新たな真珠貝として利用できる方法を検討している。本年度は種苗生産技術の開発および生理に関する基礎データの蓄積をおこなった。

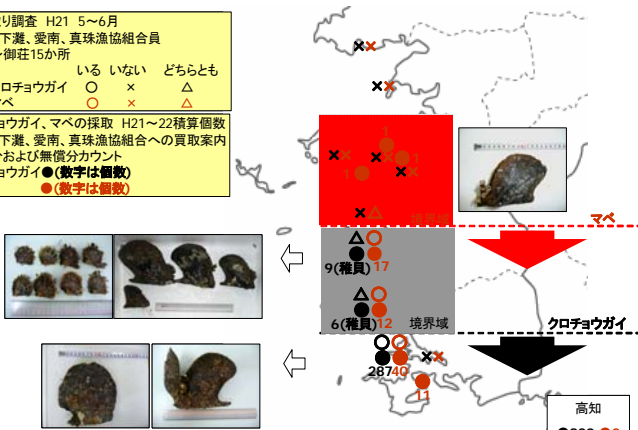
### 聞き取り調査および採取状況

クロチョウは宇和海南部以南、マベは中部以南に分布

聞き取り調査 H21 5~6月  
遊子、下灘、愛南、真珠漁協組合員  
明浜~御庄15か所

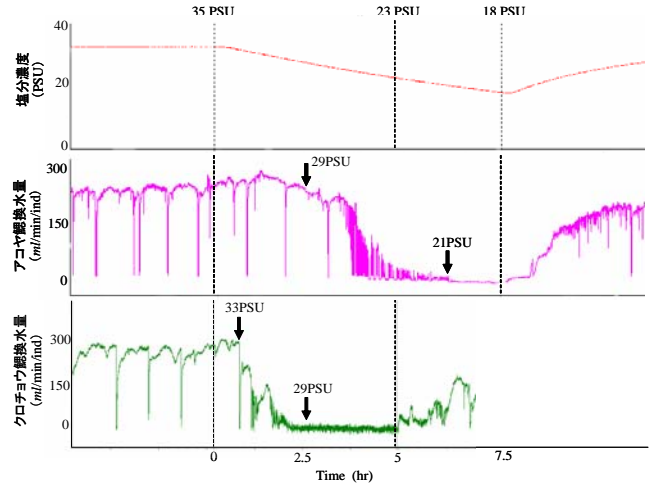
いる いない どちらとも  
クロチョウガイ ○ × △  
マベ ○ × △

クロチョウガイ、マベの採取 H21~22積算個数  
遊子、下灘、愛南、真珠漁協組合への買取案内  
買取分および無償分カウント  
クロチョウガイ ● (数字は個数)  
マベ ● (数字は個数)



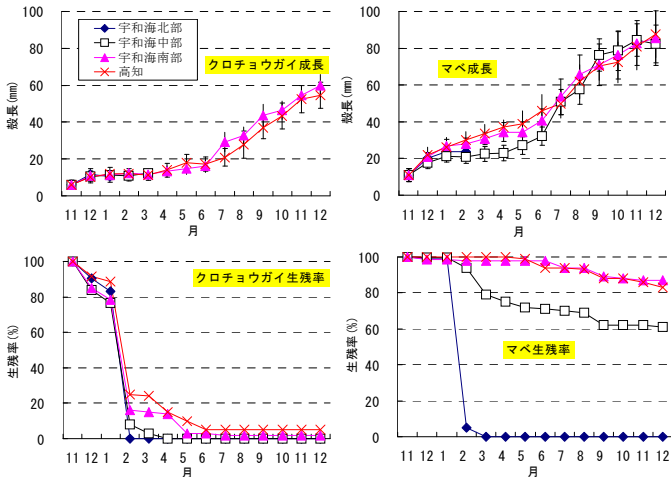
### ろ水量調査

クロチョウはアコヤより低塩分耐性が低い傾向



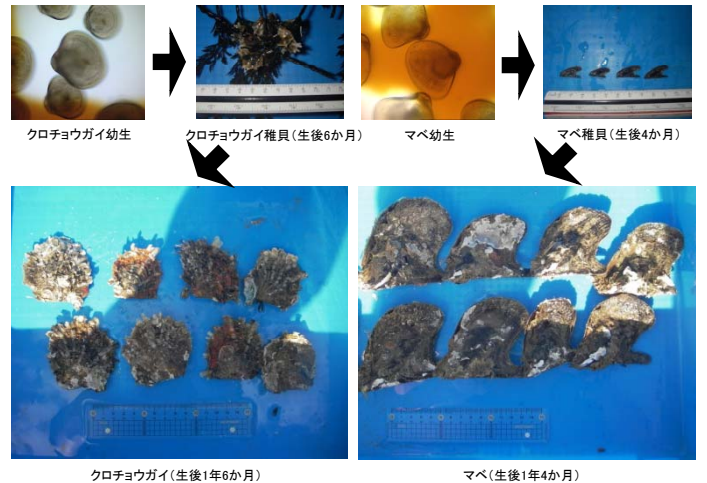
### 稚貝の成長および生残率

クロチョウは低水温期に減耗、マベは中部以南で成長



### 種苗生産および成育状況

クロチョウガイ3.2万個、マベ36.7万個生産 (H22年度)



## 今後の方向性

研究の結果、クロチョウガイは低水温期に稚貝の生残率が低いものの、マベは宇和海中部以南で真珠養殖できる可能性が高くなった。今後は、クロチョウガイ稚貝の冬季生残率の向上、およびマベ真珠生産技術開発をおこなう予定である。